

NEWS① 海に見える交流館の周辺広場やみちの整備を進めます



▲交流館周辺計画図

海に見える交流館の整備にあわせ、周辺広場やみちの設計に関する公募型プロポーザルを実施し、SAI+HiMa 設計共同体を事業者として選定しました。

今後は、子どもたちを含めた地域の皆さんや関係団体等と、ワークショップや社会実験を行いながら、広場やみちのあり方を検討していきます。

地域の皆さんの思いや、実際に空間を使う中で得られる気づきも生かしなが
ら、多様な世代が集い、交流や新たな活動が生まれる空間づくりを進めて
いきます。

NEWS② デジタルをきっかけに世代をつなぐ取り組みを進めます

海に見える交流館の２階では、子どもから高齢者まで、誰もが気軽に集まり、さまざまな活動や交流が生まれる場を目指しています。

その活用の一つとして、「世代をつなぐ」取り組みの一環となるデジタル活用の実証事業を行います。小学生向けのデジタルワークショップや高校生向けのデジタル講座を実施し、ワークショップを運営する高校生や社会人の育成にも取り組みます。

このたび、公募型プロポーザルを実施し、島根県eスポーツ連合を事業者として選定しました。交流館の開館後には、育った人材がイベントの運営や情報発信などに関わり、デジタルをきっかけとした多世代の交流や新たな活動につなげていきます。



▲ワークショップのイメージ

NEWS③ 高校生による「未来便プロジェクト」が始まりました

隠岐高校普通科3年生による、将来のまちづくりや建築に関わる進路を見据え、専門家と共に取組む自主的な探究活動「未来便プロジェクト」が始まりました。西郷港周辺まちづくりを考え、提案や実践に取組みます。

このプロジェクトでは、海の見える交流館とその周辺の広場やみちの空間づくりや、ターミナルエリアの活用などをテーマに活動します。



▲未来便の活動の様子

現在は、交流館周辺の現地調査などを進めており、今後は調査結果を整理し、広場の活用案として町へ提案する予定です。提案後も調査や実証、検証などに取組んでいきます。

「未来便」という名称には、活動を次の世代へつないでいくという思いが込められています。

**NEWS④ 国土交通省の審議官が来町
されました**

8月17日に、国土交通省大臣官房審議官（国土政策局担当）の安岡義敏氏が来町され、西郷港周辺を視察されました。



▲西郷港周辺のマイクラフト
を体験する審議官の様子

**NEWS⑤ 景観を考える
意見交換会を開催しました**

8月25日に、中町7～9町内を対象とした意見交換会を開催しました。

参加者からは、昔ながらの雰
囲気を残す道路や建物の佇ま
い、西郷湾の美しい眺めなどが
魅力的な景観として挙がり、こ
れらを将来へ守り育てていくた
めの意見交換が行われました。今
後も継続して意見交換会を開催
していきます。



▲意見交換会の様子

まちづくりの活動が広がっています

西郷港周辺まちづくりプロジェクトに関するニュースレター Vol.9 をお届けします。このニュースレターでは、現在進行中のプロジェクトに関する取り組みを町民の皆さまへお知らせしています。

海の見える交流館の建設工事が始まりました。また、交流館周辺の整備に向けた検討や、うみまち通りでの社会実験などの取り組みも進んでいます。今号では、こうした西郷港周辺まちづくりの最新の動きをお伝えします。あわせて、高校生が関わるまちづくりの取り組みについてもご紹介します。

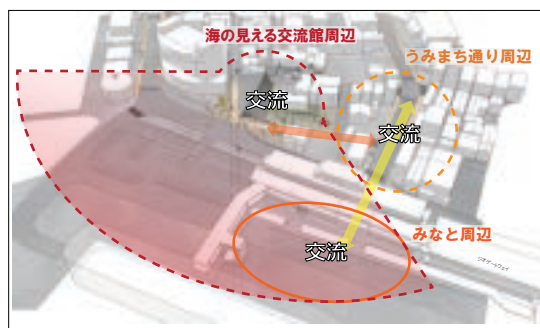


海見える交流館とうみまち通りの整備に向けて

西郷港周辺まちづくりでは、「うみまち通り」と「海見える交流館とその周辺広場」を2つの交流の主軸として整備を進めています。さらに、2つの主軸が交わる港湾エリアも含め、海とまちに開かれた交流の場を一体的に整備していきます。

現在、海見える交流館の建設工事が始まり、うみまち通りの整備に向けた社会実験も始まりました。

西郷港周辺まちづくり計画イメージ図▶



◆海見える交流館の建設工事がはじまりました

海見える交流館は、軒下広場を中心に周辺広場と一体となった複合施設で、1階には「隠岐の島の食」を楽しめる飲食店、2階には、サロンや子どもの遊び、デジタル活用、福祉活動、集会など、様々な人が集い、創造的な活動やコミュニケーションが育まれるスペースを整備します。多世代の住民が集い、地域の新しい活動が生まれる「海とまちがつながり 世代がつながる」地域拠点施設を目指しています。

建設に向けては、これまで施設の計画内容や周辺道路への影響について、中町・西町をはじめとする住民の皆さまに対して、説明と意見交換をおこなってきました。こうした取組みを経て、令和8年6月15日に海見える交流館の建築工事・機械設備工事・電気設備工事の入札会を行い、6月30日の隠岐の島町議会において工事請負契約が議決されました。

9月から本格的な工事が始まり、令和9年7月末の完成を予定しています。



▲交流館外観イメージ図



▲交流館軒下広場イメージ図

工事・設計監理請負業者

- 建築・機械設備工事 有限会社門脇工務店
- 電気設備工事 有限会社赤沼電工
- 設計監理 株式会社社内建築設計事務所

■起工式を行いました

海見える交流館の起工式を、7月27日に交流館建設地で行いました。

当日は、町長をはじめ、島根県隠岐支庁長、隠岐の島町議会議長、隠岐の島町教育長、西郷港周辺地区地権者の会や地元自治会の代表、交流館の運営事業者、まちづくりアドバイザー、設計者、施工者、西郷港周辺まちづくりに取り組む隠岐高校生など、関係者約20名が参列しました。

神事では、神職による祝詞が奏上され、平成30年度から住民参加のもと取り組んできた西郷港周辺まちづくりの歩みとともに、海見える交流館が「海とまちをつなぎ、世代をつなぐ」交流の拠点として、多くの人が集い、新たな活動やにぎわいが生まれる場となることが祈願されました。



▲神事の様子



▲玉串拝礼を行う高校生の様子



▲挨拶を行う池田町長の様子

◆うみまち通りの社会実験を実施しています

西郷港周辺まちづくりのもう1つの交流の主軸となる「うみまち通り」は、フェリーターミナル前の国道485号沿いに、海とまちをつなぎ 世代をつなぐ まちのにぎわいを生み出す空間として整備を計画しています。

うみまち通りは、今後建設を予定している沿道の建物と一体となり、人が行き交い、滞在できる空間づくりを目指しています。

その整備に向けて、現在、旧百万両跡地において社会実験を実施しています。社会実験は、実際の場所で検証を行い利用者の意見や効果を整備に生かすまちづくりの手法です。

■実際の場所で整備のあり方を検討しています

社会実験では、3種類の舗装材や歩車道境界などを実際の場所に設置しています。舗装材の色や質感、周辺の景観とのなじみ方、歩いたときの印象などを確認するとともに、歩道と車道の境界のつくり方など、うみまち通りを形づくるさまざまな要素について検討しています。

社会実験期間中は、住民の皆さまから意見をうかがいながら、うみまち通りにふさわしい空間のあり方を検討し、今後の整備に反映していきます。



▲社会実験の様子

■高校生がイベントを企画・運営しました

隠岐高校商業科3年生の「課題研究授業」では、生徒が自ら課題を設定し、調査や実践、制作などを通じて課題の解決に取り組んでいます。その中で、西郷港周辺のにぎわい創出をテーマに活動する「まちづくり班」が、昨年度からまちづくりの取組みに参加しています。

今回は、うみまち通りの社会実験に関連して、社会実験の場を活用したイベントを企画・運営しました。7月11日のイベントでは、地域の皆さんと一緒にグリーンカーテンづくりを行ったほか、コットンボールづくりやベアアートづくりなどを実施しました。イベント当日は、子どもから大人まで多くの方が訪れ、高校生が企画したさまざまな活動を楽しむ様子が見られました。



▲グリーンカーテンづくりの様子



▲イベント会場の様子



▲グリーンカーテンづくりの様子



▲ベアアートづくりの様子



▲コットンボールづくりの様子

今後の予定

今後は、社会実験の場で子どもたちを含めた住民の皆さまから意見をうかがうワークショップを開催するほか、隠岐水産高校の生徒が制作するモニュメントの設置も予定しています。

住民の皆さまや高校生など、さまざまな人が関わりながら、社会実験を通じてうみまち通りの整備に向けた検討を進めていきます。



▲看板制作をするまちづくり班の様子



▲水やりをする隠岐高校生の様子



▲モニュメント制作をする隠岐水産高校生の様子